

一致指数、7年ぶり低水準

2月2.7%低下

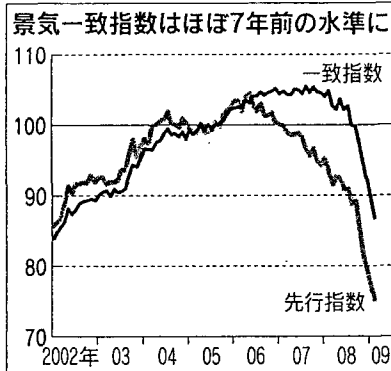
生産・消費が低調

景気底入れ、なお不透明

内閣府が六日発表した二月の景気動向指数（CI、二〇〇五年＝一〇〇）によると、景気の現状を示す一致指数は八六・八と前月より二・七%低下した。一致指数の低下は七カ月連続で、〇二年四月以来、およそ七年ぶりの低い水準となった。生産の大幅減が続き、雇用や消費の動きも低調だったことから、前月比の低下幅は過去三番目の大きさだ。ここに至って企業と家計の心理改善といった材料もあるが、景気が下げ止まり、反転する道筋はまだみえてこない。

景気一致指数は生産や販売など十一の指標を内閣府が加工して算出、速報段階では公表済みの九つの指標を使う。数値の変化で景気の「向き」を、水準で「勢い」をみることもできる。内閣府は二月の一致指数をもとにし

た景気の基調判断を九カ月連続で「悪化」とした。二月の一致指数は、〇七年十月まで戦後最長となった景気回復局面が始まった直後にあたる〇二年四月に並ぶ低水準。景気は昨秋以降に急激に悪化した。じわじわと続いた景気拡大が押し上げていた指数を二気に下押しした格好だ。しかも前月比の低下幅は〇八年八月、同十一月に記録した二・八%に次ぐ大きさだ。個別の構成指標も、二月のうつつ年の反動が出た



景気先行指数の構成指標の動き
(単位ポイント、▲はマイナス)

景気先行指数	前月差 ▲2.0
構成指標	前月差の 寄与度
消費者態度指数	0.28
中小企業売り上げ見通し	0.03
長短金利差	0.02
耐久消費財出荷指数	▲0.05
東証株価指数	▲0.10
新設住宅着工床面積	▲0.34
最終需要財在庫率指数	▲0.37
鉱工業生産財在庫率指数	▲0.43
新規求人数	▲0.46
日経商品指数	▲0.46

面もあるが、指数を下げる効果は卸売業の販売額（マイナス〇・三二%）が最も大きくなった。

ただ先行きは「反転を示したとはいえないが、完全に真つ暗というわけでもない」（内閣府）。

数カ月先の景気の動向を示す先行指数は七五・二と五カ月連続で下がったが、低下幅は二%と昨年十月（四%）、同十一月（三・六%）に比べ徐々に縮小している。先行指数の構成指標のうち、消費者心理を示す消費者態度指数が二カ月連続で上昇し、中小企業の売り上げ見通しも下落幅が小さくなってきたことなどが背景だ。

今後の指数持ち直しのポイントが生産が回復するかどうかだ。在庫調整が一段落した自動車産業は四月以降、本格的に減産ペースを緩和する見通し。自動車生産の底入れ

は他産業への波及効果が大きく、経済産業省も三月、四月の生産は増加すると見込んでいる。野村証券の木内登英経済調査部長は「アジア向けの電子部品の輸出が少しずつ上向き、国内での在庫調整が進んでいるので、生産は春から夏にかけて徐々に持ち直すとみられる」と指摘する。